

情景描写の工夫例

《 暑さでほーっとした気持ちを表現する例(星の花が降るころに) 》
もう九月といつのに、昨日も真夏日だった。校庭に出ると、毛穴という毛穴から魂がぬるぬると溶け出してしまいそうに暑かった。

《 強いショックを受け、呆然となっている気持ちを表現する例(大人になれなかった弟たち) 》
空は高く高く青く澄んでいました。フーンフーンとB29の独特のエンジンの音がして、青空にきらっきらっと機体が美しく輝いています。

《 これから暗い気持ちで話をしようとする表現する例(少年の日の思い出) 》
彼が開いた窓の縁に腰掛けると、彼は外の間からほとんと見分けがつかなかった。

《 父との別れが寂しく思っている気持ちを表現する例(益土産) 》
谷間はすでに日がかげって、雑魚を釣った川原では早くも河鹿が鳴き始めていた。

《 希望に燃える気持ちを表現する例(走れメロス) 》
斜陽は赤い光を木々の葉に投げ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。

行動描写の工夫例

《 気に入らない人物に対して怒りの気持ちを表現する例(星の花が降るころに) 》
私は戸部君をにらんだ。私は戸部君を押しつけるようにして立ち上がり、廊下に向かった。

《 悪いと思いつつもしてしまふ気持ちを表現した例(大人になれなかった弟たち) 》
でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も・・・。
僕は弟がかわいくてしかたがなかったのですが・・・それなのに飲んでしまいました。

《 こらえきれず、ぶつけられない怒りを大事なものにぶつけて表現する例(少年の日の思い出) 》
そして、ちゅつを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまいました。

《 驚きあざれる気持ちを表現する例(益土産) 》
父親が珍しくそんな冗談を言うので、思わず首をすくめて笑ってしまいました。

《 疲れ切った様子を表現する例(走れメロス) 》
メロスは、また、よろよろと歩きだし、家へ帰って神々の祭壇を飾り、祝宴の席を調べ、間も無く床に倒れ伏し、呼吸もせぬくらい深い眠りに落ちてしまいました。

心情描写の工夫例

《 ショックを受けている気持ちを表現する例(星の花が降るころに) 》
音のないこま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。

《 嬉しい気持ちを表現する例(大人になれなかった弟たちに) 》
生まれて初めて見る、それは桃源郷でした。

《 自分の中にある強い複雑な気持ちを表現する例(少年の日の思い出) 》
そうした微妙な喜びと、激しい欲望との入り交じった気持ちは、その後、そうしたたび感じたことはなかった。

《 好きだと感じる気持ちを表現する例(アイスプラネット) 》
それは、いつもおもしろい話をするときのへうつちゃんの癖で、だから、僕はへうつちゃんのその表情が好きだ。

《 美しく感じた気持ちを表現する例(益土産) 》
かむと、緻密な肉の中で前歯がかすかにきしむような、いい歯応えで、この辺りでへるみ味といっているえもいわれないうまさの口の中に広がった。

《 やる気なく投げ出している気持ちを表現する例(走れメロス) 》
ああ、何もかもはかばかしい。私は醜い裏切り者だ。どうとも勝手にするがよい。ちゃんぬるかな。

助詞 昨日も
比喩 魂がぬるぬると
擬態語
反復 高く高く
色彩 青く・青空
辞書 間
五感 日がかげって
辞書 斜陽
色彩 赤い光

辞書 にらんだ
省略 押しつけるように
何回も・・・
助詞 それなのに
助動詞 飲んでしまいました
助動詞 つぶしてしまいました
修飾語 思わず
辞書 首をすくめて
擬態語 よろよろと
比喩 呼吸もせぬくらいの

比喩 音のないこま送りの
修飾語 変に
修飾語 生まれて初めて
比喩・辞書 桃源郷
辞書 欲望・入り交じった
対句 微妙な喜び
激しい欲望
辞書 好きだ
五感 歯応え・へるみ味
辞書 ばかばかしい